

大学生による農山村・農林業体験活動の 動向と体験前後の変化

食料・環境領域 主任研究官 田中 淳志

都市部の大学生を中心に、農林業体験サークルに参加し、自主的に農山村で農林業体験を行う者が増えています。そこで、主に大学が都市部にあり、長年活動が継続し、農山村へ農林業体験に出向く、8つの団体にヒアリング及びアンケート調査（直前、直後、1ヵ月後の3度）を実施し、学生が活動に参加する動機や活動前後の意識変化、また、職業選択にどのような影響があるのかを調査しましたので、その内容を報告します。

学生の参加動機には大きく分けて3つあり、学生時代にしかできないこと、新しいことや都会と違うことをしたいといった「非日常への関心」に関するもの、食、農林業や農山村に住む人への関心といった「農林業・農山村への関心」に関するもの、現地の人との交流や他の参加者との交流といった「人との交流への関心」に関するものがありました。

農林業・農山村体験に参加することで自身がどのように変化するというかに関する直前アンケート結果の因子分析では、「農林業・農山村経験欲求」因子「キャリア活用」因子という2つの因子が抽出されました（第1表）。

この2因子の関係を示すと（第1図）農林業・農山村経験欲求因子はキャリア活用因子に影響を与えておらず、農林業・農山村経験が、学生の職業選択と別のものとして考えられており、農林業・農山村体験を通じて職業選択をするという関係が見られませんでした。

次に、同じ質問を体験直後に実施すると、上記因子が「自己の成長」「農林業を理解しキャリア活用する」の2つの因子となりました（第2表）。

この2因子の関係を示すと（第2図）「農林業を理解しキャリア活用する」因子は、「自己の成長」因子へ強い影響を与え（0.98）、その因子を通じて質問1～3へも正の効果を及ぼします。一方で「自己の成長」因子は、「農林業を理解しキャリア活用する」因子に負の影響を与え（-1.43）、「農林業を理解しキャリア活用する」因子を通じたその先の変数にも負の効果を及ぼします。例えば、「自己

第1表 農林業・農山村体験による自身の変化に関する質問と因子負荷量（直前アンケート）

質問内容	因子1	因子2
1 自身の視野が広がると思う	0.4982	0.2353
2 自身の成長ができると思う	0.5386	0.1528
3 大学で学んでいる専門分野の理解につながると思う	-0.1238	0.6657
4 将来の就職活動や就職先で役立つと思う	0.1395	0.6062
5 農産物を作ったり木を育てる大変さがわかると思う	0.4320	0.1537
6 農家や林業従事者が抱える農林業に関する悩みが理解できると思う	0.4230	0.2296
7 自身の生活と農林業・自然との結びつきが理解できると思う	0.7009	-0.0414
8 訪問先に魅力を感じると思う	0.6542	-0.2105

注. N=147 主因子法, プロマックス回転, 固有値1まで, 寄与率順に38.2%, 15.0%

第2表 農林業・農山村体験による自身の変化に関する質問と因子負荷量（直後アンケート）

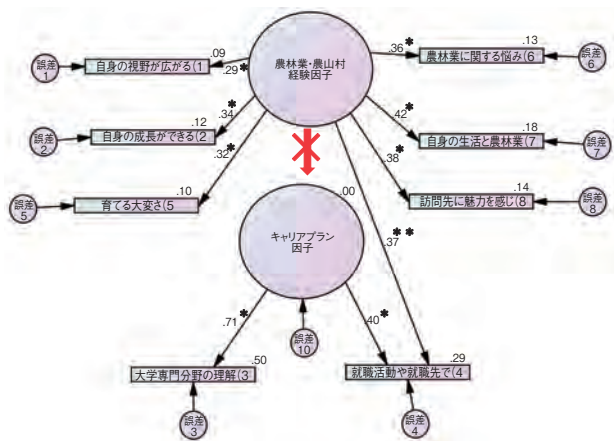
質問内容	因子1	因子2
1 自身の視野が広がると思う	0.9040	-0.0407
2 自身の成長ができると思う	0.8797	0.0242
3 大学で学んでいる専門分野の理解につながると思う	0.3271	0.1444
4 将来の就職活動や就職先で役立つと思う	0.1942	0.4182
5 農産物を作ったり木を育てる大変さがわかると思う	-0.0096	0.5601
6 農家や林業従事者が抱える農林業に関する悩みが理解できると思う	-0.0682	0.7128
7 自身の生活と農林業・自然との結びつきが理解できると思う	0.2242	0.5299
8 訪問先に魅力を感じると思う	0.2503	0.4791

注. N=141 主因子法, プロマックス回転, 固有値1まで, 寄与率順に43.1%, 14.1%

第3表 農林業・農山村体験による自身の変化に関する質問と因子負荷量（1ヵ月後アンケート）

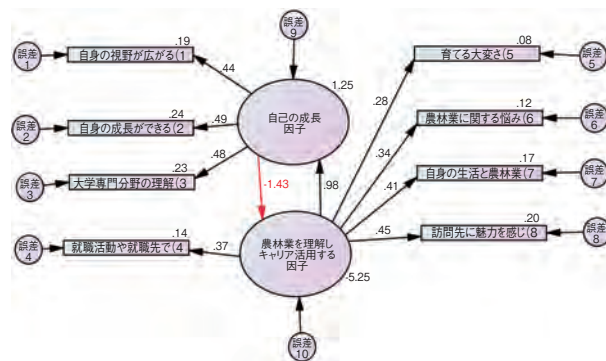
質問内容	因子1
1 自身の視野が広がると思う	0.7987
2 自身の成長ができると思う	0.7468
3 大学で学んでいる専門分野の理解につながると思う	0.6317
4 将来の就職活動や就職先で役立つと思う	0.5638
5 農産物を作ったり木を育てる大変さがわかると思う	0.5035
6 農家や林業従事者が抱える農林業に関する悩みが理解できると思う	0.4280
7 自身の生活と農林業・自然との結びつきが理解できると思う	0.6732
8 訪問先に魅力を感じると思う	0.7399

注. N=82 主因子法, プロマックス回転, 固有値1まで, 寄与率48.5%.



第1図 直前アンケートのパス解析（共分散構造分析）

注. 数字は標準化係数（矢印部）と切片（独立変数の肩）.
*：5%有意 **：1%有意



第2図 直後アンケートのパス解析（共分散構造分析）

注. 数字は標準化係数（矢印部）と切片（独立変数の肩）. すべて1%有意.

の成長」因子から「農林業を理解しキャリア活用する」因子を経由して、「将来の就職活動や就職先で役立つと思う」項目へは、 $-1.43 \times 0.37 = -0.529$ という負の効果を及ぼしています。「農林業を理解しキャリア活用する」意識が高い学生は、「自己の成長」にも正に影響する一方、「自己の成長」意識が高くても、「農林業を理解しキャリア活用する」意識に正の影響はないと言えます。

最後に、同じ質問を体験1ヵ月後に実施すると、すべての変数を要素に含む「農林業・農山村経験を踏まえたキャリア活用」因子が現れました（第3表）。体験活動から時間が経ち、農林業・農山村での経験と、大学での勉強及び将来の就職との結びつきを見つけ、役立てようとする考えを持つようになった結果だと思われました。

次に仕事・生活についての考え方を聞いた質問では、「10 様々な世代の人との交流を通じ、地域コミュニティを支えることは重要」「12 幸せは都市より農山村にいて実感できる」という項目を含む「農村での交流欲求」因子3が最終的に出現し（第4表）、また、「16 仕事を通じ他者の生活を豊かにしたい」「18 地道な仕事の積み重ねが大きな成果に結びつく」といった項目が最終的に結びついた「下働きの重要性の理解」に関する因子が出現しました

第4表 仕事・生活についての考え方に関する質問と因子負荷量（1ヵ月後アンケート）

質問項目	因子1	因子2	因子3
9物事に無心になって取り組むことは大切だと思う	0.1363	0.0249	0.4057
10様々な世代の人との交流を通じ、地域コミュニティを支えることは重要だと思う	0.1085	-0.1321	0.9404
11スマホやインターネットがなければ生活できない	0.1902	0.5373	-0.1671
12幸せは農山村よりも都市にいて実感できると思う	0.0508	0.4903	-0.3146
13幸せは物を持つことで実感できると思う	-0.1445	0.9226	0.2076
14幸せは人とのつながりで実感できると思う	0.5201	0.0597	0.0933
15誇りを持てる仕事に就きたいと思う	0.9096	0.0795	0.0762
16仕事を通じて、他人の生活を豊かにしたいと思う	0.4440	-0.0518	0.0823

注. N=82 最尤法, プロマックス回転. 固有値1まで. 寄与率順に31.6%, 21.2%, 12.9%.

第5表 仕事・生活についての考え方に関する質問と因子負荷量（1ヵ月後アンケート）

質問項目	因子1
15誇りを持てる仕事に就きたいと思う	0.7105
16仕事を通じて、他人の生活を豊かにしたいと思う	0.6753
17工夫して仕事をする、つまらないと思ったことも楽しくなると思う	0.6756
18地道な仕事の積み重ねが、大きな成果に結びつくと思う	0.6308
19自分と異なる価値観を認められれば、自分の考え方が広がると思う	0.8822
21自分のやりたい仕事ができなければ意欲がわかない	-0.2583

注. N=53 最尤法, プロマックス回転. 固有値1まで. 寄与率は52.3%. 質問20は他の質問と相関係数が高く除外.

（第5表）。

これらをまとめると、農林業・農山村体験には、「職業理解」「自己の適正理解」「社会人としての基礎力育成」に加えて、「地域コミュニティを支える考え」などの効果が見られました。

また、ヒアリング調査では、JAや6次産業化事業体などに就業した者（学生数の5%程度）や食品製造企業等に就職した者、体験先の市町村職員などにIターンした者など、農林業・農山村体験が就職に結び付けられている事例が散見されました。